

国見ホイスコーレ

「フォルケホイスコーレとは？」

「フォルケホイスコーレ」とは、デンマーク発祥の全寮制の成人教育機関。試験や成績評価はなく、「自分が興味あることを探したい人」や「新しいことにチャレンジしたい人」が、仲間たちと共同生活を送り、自由な対話を通じて自分を見つめ直す“人生の学校”です。



“人生の学校”づくりプロジェクト
「国見ホイスコーレ」

国見町には、高校も大学もありません。中学校を卒業すると、若者は町外の高校・大学に進学し、自身の

将来と向き合う大切な青春時代の多くを町外で過ごします。そうした現状に、若者同士や地域とのつながりは希薄化し、町への愛着が失われつつあります。

そこで町は、地域資源を活かしながら、若者をはじめとする多世代が集い、地域との交流を通じて“本場に学びたいことを学べる場”を創出するため、「フォルケホイスコーレ」をモデルとした“人生の学校”づくりプロジェクトに取り組んでいます。それが「国見ホイスコーレ」です。

「国見ホイスコーレ」では、「国見プロジェクト学習」、「国見カスタムラボ」、そして「短期ホイスコーレ」の3つの取り組みを柱に、新たな「学びの場」を提供していきます。



海外学生と国内学生たちが
国見町の“未来”を考える11日間

北欧独自の教育スタイル「フォルケホイスコーレ」をモデルに、新たな“学びの場”づくりに取り組む国見町。7月14日から24日までの11日間にわたり、県内初の試みとなる「短期ホイスコーレ」が、貝田地区で開かれました。

01 貝田地区の“未来”を考える11日間の「短期ホイスコーレ」

「国見ホイスコーレ」の取り組みの一環として、7月14日から24日までの11日間にわたり、貝田地区を舞台とした「短期ホイスコーレ」を開催しました。

「短期ホイスコーレ」は、第一線で活躍する建築家

のみなさんを講師に迎え、「フォルケホイスコーレ」の“本場”であるデンマークとスウェーデンから建築学を学ぶ大学生5人と、日本全国から大学生6人が参加。「貝田地区の未来を考える」をテーマに、地区のみなさんの協力のもと、学生が貝田地区の“未来”のデザインに挑みました。

1 2 活発な意見交換を行う学生と地区のみなさん 3 フィールドワークで地区の資源を探る学生 4 海外学生のノートには見聞きた地区の情報がびっしり



02 貝田地区の「資源」を探る

学生は3つのグループに分かれ、フィールドワークと地区のみなさんとの「対話」を重ねながら、地区に眠る「資源」を掘り起こしていきます。

今回の「短期ホイスコーレ」では、海外学生とのコミュニケーションの課題を解消するため、KDDI株式会社の協力により、タブレット端末や翻訳サービスを活用しながら、学生と地区のみなさんによる活発なコミュニケーションが行われました。



「佐野屋」さんでのホームステイ

らしを体感することで、地区のみなさんと思いを共有しながら、アイデアを具現化していきました。

03 貝田地区の“未来”を描く

また、海外学生5人は、旧貝田宿の面影を残す「佐野屋」さんの養蚕住宅で3日間のホームステイを体験。実際に貝田地区での暮

場として、「貝田地区の未来」を報告、共有し、地区のみなさんと意見交換する場として、「貝田地区の未



▶ 白熱した議論で盛り上がる学生と地区のみなさんによる合同作業会

来を考える」合同作業会が7月22日、貝田公民館で行われ、貝田地区の多くのみなさんが参加しました。

各グループは、「大沼公園」、「レンガ橋」、「奥州街道」をテーマに、それらの「資源」の活用法を検討。地区のみなさんからの意見を取り入れながら、地区のデザインを練り上げました。

成果発表会では、学生が練り出すユニークで魅力的な提案に、地区のみなさんは真剣に聞き入っていました。

11日間にわたって開かれた「短期ホイスコーレ」。世代や国籍を超えた交流は、学生と地区のみなさんの協働によって多様な視

点・価値観が融合し、それぞれが魅力的な“未来”を描き上げました。

* * * * *

価値観の異なるさまざまな立場の人が集い、「対話」を通して共有し、理解を深めることで、既存の価値観にとらわれない新たな気付きを得ることができました。自分を深く知り、人生を豊かにすることができ、”学びの場”が、「国見ホイスコーレ」なのです。

町は、今後も継続的に「短期ホイスコーレ」に取り組む、国見独自の「ホイスコーレ」を作り上げていきます。



貝田地区のみなさんの厚意により秋葉神社境内で開かれた歓迎会。学生と地区のみなさんによる心温まる交流が行われました